

県指定区間における河川環境の現状

令和 7 年 5 月 29 日（木）

神奈川県 河港課

Kanagawa Prefectural Government

県指定区間における河川環境の現状

○自然環境

【下流部～中流部（神川橋～三川合流点）】

- 緩やかに蛇行して流れ、瀬と淵が見られる。
- 寄州には礫河原やヨシ原が見られ、礫河原にはコアジサシ、ヨシ原にはカヤネズミやオオヨシキリなどが生息・繁殖している。
- アユの産卵場が多く、アユの漁獲高は全国有数である。

【中流部～上流部（三川合流点～小倉橋）】

- 河道には礫河原が発達し、中州やワンド・たまり等の環境が見られる。
- 両岸の河岸段丘には河畔林が維持されている。
- 一部区間では、河床の粗粒化（アーマーコート化）に伴う、河道の固定化・二極化により、河原の樹林化が進み、セイタカアワダチソウやハリエンジュ等の外来植物が増加している。
- 行政と地域の学校や市民団体等が連携・協働して、カワラノギク保護活動行っている。



▲ 礫河原



▲ カヤネズミの球巣



▲ ハリエンジュの群落



▲ カワラノギク

○河川空間の利用及び景観

- 相模川の河川空間は沿川の市街化の進展による都市部における貴重なオープンスペースとなっている。
- 内水面漁業(アユ釣り等)、公園、運動場、ゴルフ場、散策といったスポーツやレクリエーション、憩いの場、水辺の楽校による環境学習や自然体験活動、カワラノギクの圃場整備による自然環境の保全、花火大会や大風まつりなどの地域のイベントなど、河川敷は様々な人に利用されている。
- 中流部は、両岸の河岸段丘に見られる斜面林と、沿川の田園風景が特徴的で、水域には広い礫河原、瀬と淵、ワンドやたまりなど多様な河川形態が見られる。



▲アユ釣りの様子



▲河川敷のスポーツ利用



▲ カワラノギクの圃場箇所

2

○流量の変化によって想定される河川環境の変化

- (1) 水域の変化による影響
 - 砂州が変化するなど滞筋や瀬・淵への影響
 - ワンドやたまりの変化に伴う、生物の生息・生育環境への影響
- (2) 河道内における冠水頻度の変化
 - 陸域と水域の二極化の進行に伴う、河床環境の攪乱減少と滞筋の固定化
 - 陸域に繁殖しやすい外来種(ハリエンジュ等)の繁茂
 - 樹林化に伴う流下能力への影響
 - 礫河原の変化
- (3) 河床材料の変化
 - 流水による掃流力の低下により、細粒分の土砂堆積の増加
 - 付着藻類への影響など、生物の生息・生育環境の変化

3